

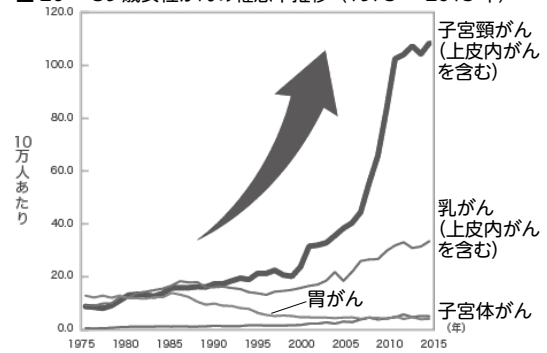
子宮頸がんが増えています

「子宮頸がん」とは？

毎年およそ1万1,000人の女性がかかり、およそ2,900人が亡くなるとされており増加傾向です。また、20歳代から30歳代に増えています。

ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスに持続的に感染することにより起こると考えられています。HPVは性的接触により感染し、50%以上の多くの女性が一生に一度は感染すると言われる、ありふれたウイルスです。

■ 20～39歳女性がんの罹患率推移 (1975～2015年)



— 子宮頸がん(上皮内がんを含む) — 子宮体がん — 乳がん(上皮内がんを含む) — 胃がん
 (出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ)(1975～2015年))

「子宮頸がん」を予防・早期発見するためには？

① ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンを接種する

HPVの感染予防のためには性的接触を経験する前にワクチンを接種することが最も有効です。

定期接種対象:小学6年生から高校1年生相当の女性

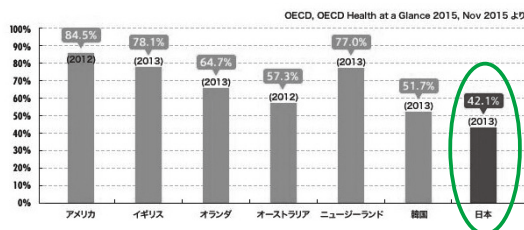
※HPVワクチンの積極的な勧奨を差控えている間に接種機会を逃した方

(平成9年度生まれから平成17年度生まれまでの女子)は公費での接種の対象となります。

※ワクチンの有効性とリスクについて知ったうえで接種について検討してください。

② 20歳を過ぎたら2年に1度、定期的に子宮頸がん検診を受ける

■ 子宮頸がん検診の受診割合 (20-69歳) 国際比較



※対象の方には、がん検診について、4月に案内を送付します。詳しくはそちらをご覧ください。

子宮頸がん検診の所要時間は5～10分程度です



令和4年4月から積極的勧奨が再開となりました。



厚生労働省
「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPVワクチン～」